

～ 令和3年度 ～

お客さま本位の業務運営に関する取組方針に係る成果指標(KPI)について



千葉信用金庫

お客様本位の業務運営に関する取組方針に係る成果指標(KPI)の公表について

- ▶当金庫では、お客様本位の業務運営の徹底を図るため、金融庁が公表した「顧客本位の業務運営に関する原則」を採択し、「お客様本位の業務運営に関する取組方針」を策定しております。
- ▶このたび、本方針に基づく取り組みの成果を分かりやすくお伝えするため、令和3年度の取組状況および成果指標(KPI)を取りまとめましたので公表致します。

当金庫の取組方針		成果指標(KPI)	原則 (※)
1	お客様にとって最善の利益の追求	①商品ラインナップ(投資信託・生命保険)	2、5 6
		②投資信託残高と口座数推移	
		③投資信託の預かり資産残高上位20銘柄	
		④運用損益別顧客比率(投資信託)	
2	利益相反の適切な管理	⑤売上上位商品5銘柄(投資信託・生命保険)	2、3 5、7
3	重要事項および手数料等に関する分かりやすい情報提供	⑥アフターフォローの実施状況	2、4 5、6
		⑦投資信託の預かり残高上位20銘柄のコスト・リターン	
		⑧投資信託の預かり残高上位20銘柄のリスク・リターン	
4	役職員に対する適切な動機づけの仕組み等	⑨庫内研修・勉強会の実施状況	2、6 7
		⑩FP資格保有者数	

(※)原則欄の数字は金融庁が公表した「顧客本位の業務運営に関する原則」における該当番号です。原則の内容については最終ページに掲載していますのでご参照ください。
なお、当金庫は金融商品の組成に携わっていないため、同原則6(注3)に該当する項目はありません。

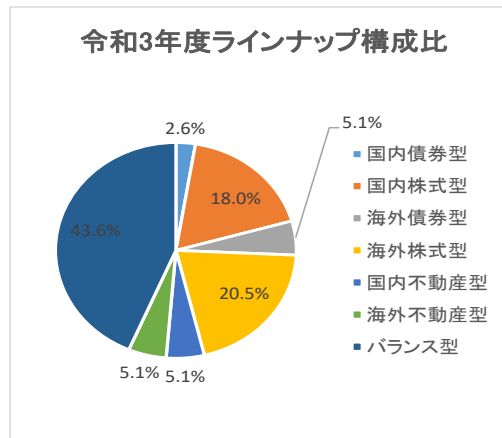
(取組方針 1) お客様にとって最善の利益の追求

- ▶ 当金庫では店頭設置パソコンならびに営業担当者の携行しているスマートデバイスに導入した金融商品の販売を支援するアプリケーションにより、販売の都度、適合性等を確認しお客様のリスク許容度や運用方針に基づいた商品に限り提案を行う体制としています。
- ▶ 当金庫で投資信託を保有しているお客様の運用状況は、新型コロナウイルスの感染拡大により経済活動が制約された状況下で、運用益がプラスとなったお客様の割合は87%となりました。
- ▶ 生命保険は、法人向け定期保険1商品、全期前納終身保険1商品および、がん保険1商品を新規に追加し合計13商品のラインナップとなりました。
お客様の多様なニーズにお応えしてゆくため、これからも商品ラインナップの充実を図ってまいります。

①商品ラインナップ

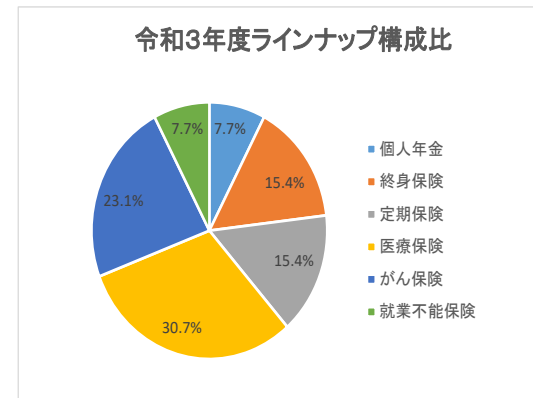
(投資信託)

投資対象	銘柄数	構成比率
国内債券型	1	2.6%
国内株式型	7	18.0%
海外債券型	2	5.1%
海外株式型	8	20.5%
国内不動産型	2	5.1%
海外不動産型	2	5.1%
バランス型	17	43.6%
合計	39	100.0%

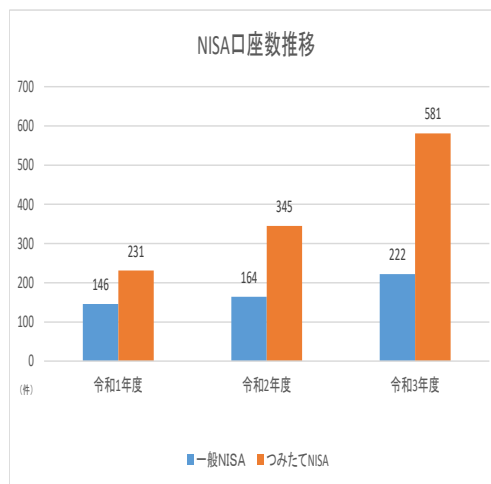
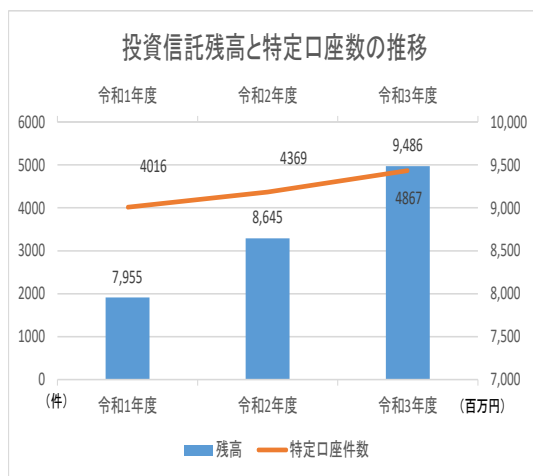


(生命保険)

商品分類	商品数	構成比率
個人年金	1	7.7%
終身保険	2	15.4%
定期保険	2	15.4%
医療保険	4	30.7%
がん保険	3	23.1%
就業不能保険	1	7.7%
合計	13	100.0%



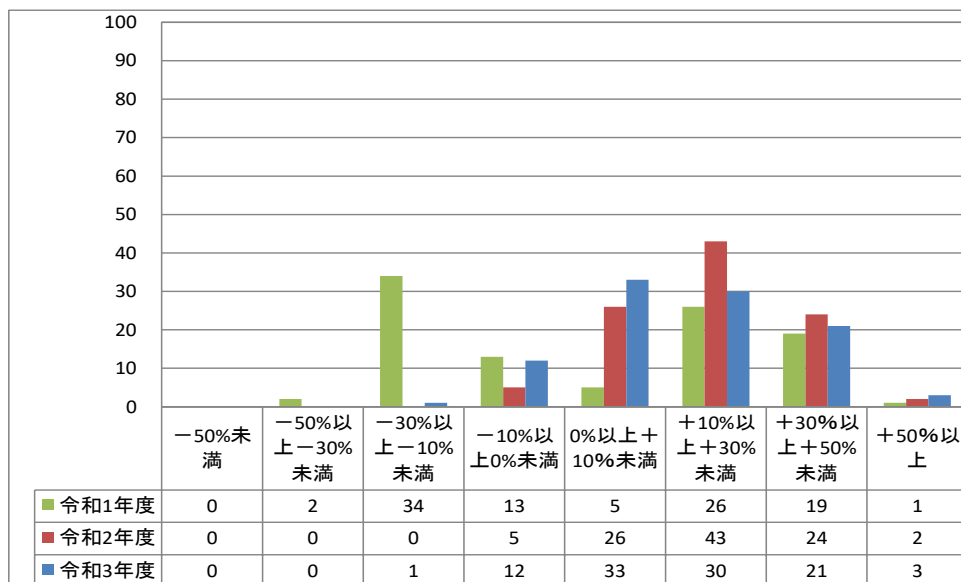
② 投資信託残高と口座数推移



③ 投資信託の預かり資産残高上位 20 銘柄

順位	投資信託残高上位20銘柄	残高(百万円)
1	ニッセイ／バトナム・インカムオープン	2,061
2	しんきん3資産ファンド(毎月決算型)	1,310
3	しんきんインデックスファンド225	1,192
4	グローバル・ソブリン・オープン毎月決算型	1,163
5	しんきんJリートオープン(毎月決算型)	1,138
6	投資のソムリエ	262
7	しんきんグローバル6資産ファンド(毎月)	198
8	しんきん好配当利回り株ファンド(3カ月)	194
9	しんきん世界好配当利回り株(毎月決算型)	170
10	新光US-REITオープン	137
11	しんきん世界アロケーションファンド	97
12	グローバル・ハイクオリティ成長株Hなし	94
13	リスク抑制世界8資産バランスファンド	85
14	しんきん好配当利回り株ファンド	80
15	ハイグレード・オセアニア・ボンド(毎月)	76
16	たわらノーロード 日経225	73
17	たわらノーロード 先進国株式	71
18	新成長株ファンド	48
19	しんきん世界アロケーションF(積極型)	45
20	東京海上・円資産バランスF(毎月決算型)	42

④ 運用損益別顧客比率



※基準日: 令和4年3月末時点(平成15年6月以降の数値をもとに算出しております)。
 ※運用損益: 基準日時点の評価金額+累計受取分配金(税引後)+累計売却金額-累計買付金額(販売手数料(税込)を含みます)。
 ※運用損益率: 上記運用損益を基準日時点の評価金額で除して算出しております。

(取組方針 2) 利益相反の適切な管理

➢当金庫では、営業部門から独立した経営管理部を利益相反管理統括部門として、利益相反の恐れのある取引について、お客様の利益を不当に害していないかを適切に判断・特定し、利益相反の防止に努めています。
 ➢金融商品のご提案にあたっては販売手数料の多寡にかかわらず一律の評価体系とすることで、お客様のご意向に沿った提案が行える態勢を整備しています。
 令和3年度の投資信託販売実績うち、52.8%は販売時手数料が発生しない商品となりました。

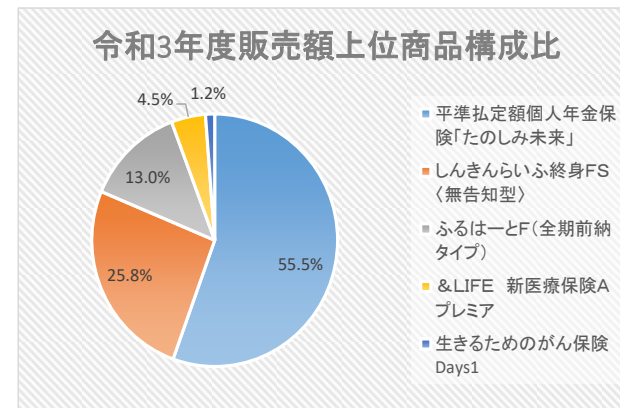
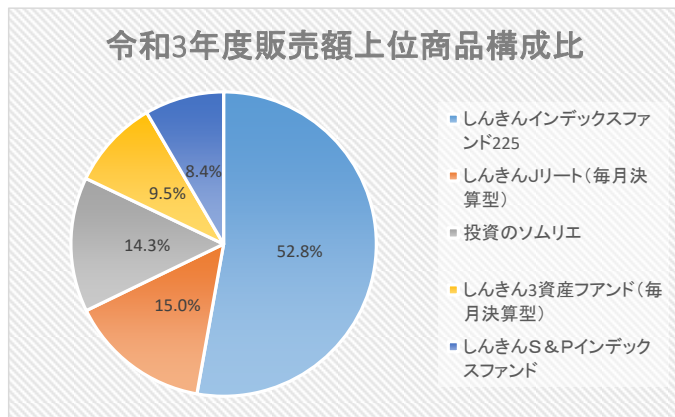
⑤売上高上位商品5銘柄

(投資信託)

順位	銘柄名	購入時手数料率 (税込)	投資対象	販売額 (百万円)	投信会社
1	しんきんインデックスファンド225	なし	国内株式	1,084	しんきんアセットマネジメント投信
2	しんきんリートオープン(毎月決算型)	2.20%	国内不動産	308	しんきんアセットマネジメント投信
3	投資のソムリエ	2.20%	バランス	293	アセットマネジメントOne
4	しんきん3資産ファンド(毎月決算型)	2.20%	バランス	194	しんきんアセットマネジメント投信
5	しんきんS&P500インデックスファンド	2.20%	外国株式	171	しんきんアセットマネジメント投信

(生命保険)

順位	商品名	商品分類	取扱件数	保険会社
1	平準払定額個人年金「たのしみ未来」	運用性商品	398	住友生命保険
2	しんきんらいふ終身FS<無告知型>	運用性商品	185	フコクしんらい生命保険
3	ふるはーとF(全期前納タイプ)	運用性商品	93	住友生命保険
4	&LIFE新医療保険Aプレミアム	保障性商品	32	三井住友海上あいおい生命
5	生きるためのがん保険Days1	保障性商品	9	アフラック生命保険



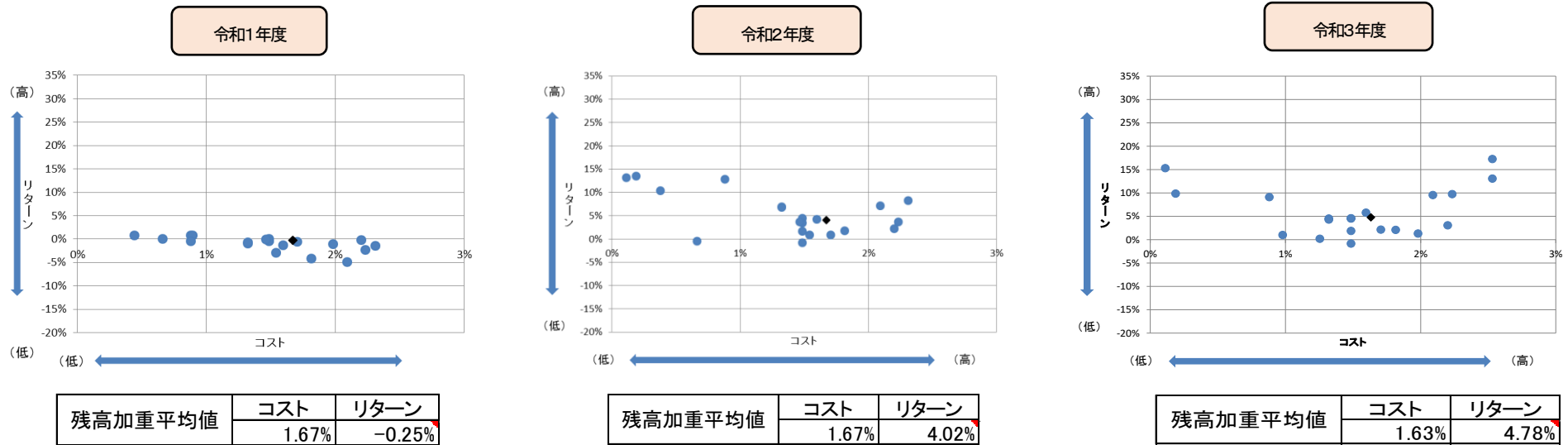
(取組方針 3)重要事項および手数料に関する分かりやすい情報提供

- 重要事項の説明にあたっては、パンフレット等を活用するとともに「投資信託の手数料等に関する説明にかかる留意事項チェックシート」に基づき、分かりやすい説明を行っています。
- パソコンやスマートデバイスを活用して説明義務の履行状況を系統的に検証する他、自動作成される申込書に重要事項等の確認欄を設け、お客さまの理解度の確認を行っています。
- 投資信託販売後も、経済環境や市場動向を踏まえアフターフォローの充実に努めており、投資信託の運用損益が一定割合以上マイナスになっているお客さまにアフターフォローを実施しています。
- 当金庫の投資信託の商品ラインナップの選定においては、多様なデリバティブ等を活用するなど複雑な仕組みを内包した商品の選定は行わない方針としています。

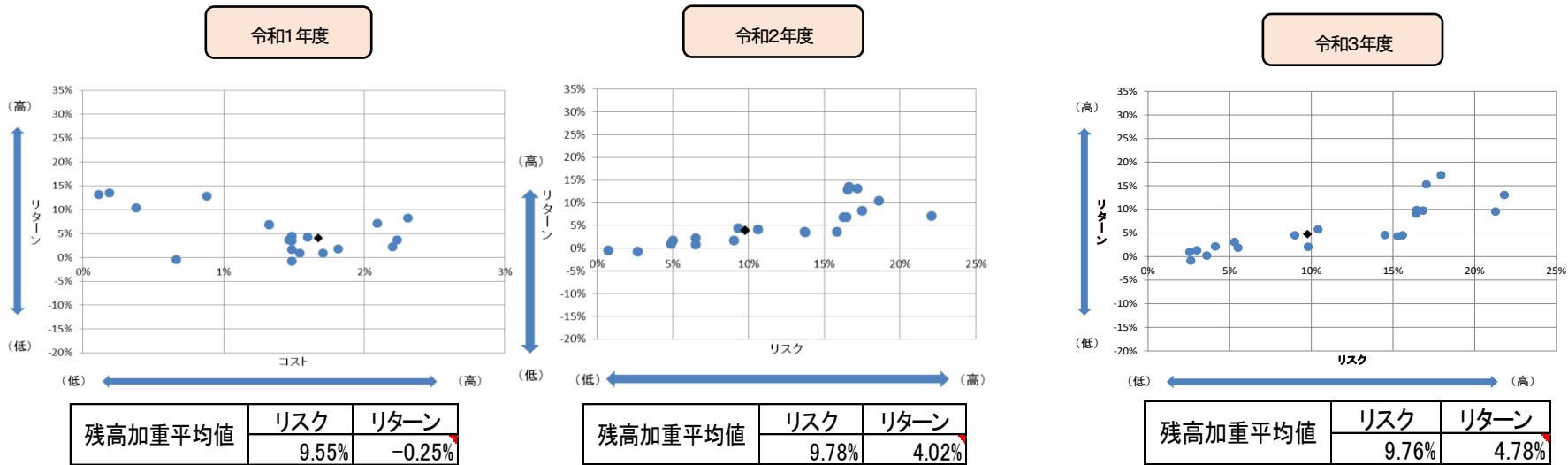
⑥アフターフォローの実施状況

令和3年度	
実施予定数	年2回
実施回数	上期1回・下期1回実施

⑦投資信託の預かり資産残高上位 20 銘柄のコスト・リターン



⑧投資信託の預かり資産残高上位 20 銘柄のリスク・リターン



当金庫の5年以上経過している投資信託の預かり残高上位20銘柄のコストやリスクに対するリターンを表示しております。残高上位20銘柄の平均コスト1.63%(前年度比▲0.04ポイント)、平均リスク9.76%(前年度比▲0.02ポイント)に対して、平均リターンは4.78%(前年度比+0.76ポイント)となりました。

※基準日:令和4年3月末時点

※対象ファンド:投資信託の預かり残高上位20銘柄(設定後5年以上)

※コスト:(販売手数料÷5)+信託報酬(年率)

販売手数料は最低販売金額での料率(税込)

信託報酬(年率)は、目論見書記載の実質的な信託報酬率の上限(その他の費用・手数料は含まず)

※リターン:過去5年間のトータルリターン(年率換算)

騰落率算出の際に用いる分配金再投資後(税引前)の基準価額を使用

※リスク:過去5年間の月次リターンの標準偏差(年率換算)

騰落率算出の際に用いる分配金再投資後(税引前)の基準価額を使用

～上記は、将来における当金庫取扱いの投資信託のリターン、リスクを示唆、保証するものではありません。～

(取組方針4) 役職員に対する適切な動機づけの枠組み等

- 当金庫では、店舗ごとに金融預かり資産の推進に係る責任者を定め、定期的な研修を実施する他、テーマ毎の勉強会を実施して各職員のレベルに応じた金融知識の拡充機会を提供し金融知識やコンプライアンス、販売スキルの向上を図る体制としています。
- お客様のニーズに沿った適切な商品をご案内するため、国家資格「ファイナンシャル・プランニング技能士」の取得を推奨しています。

⑨ 庫内研修・勉強会の実施状況

<令和3年度 預かり資産業務研修>

- 預かり資産推進責任者研修 …………… 10 回開催、参加人数延べ 560 名
- 預かり資産知識強化勉強会(自主参加型)…………… 5 回開催、参加人数延べ 61 名
- 預かり資産 Web 勉強会(自主参加型)…………… 46 回開催
- 投資信託 Web 勉強会(自主参加型) …………… 48 回開催

⑩ FP資格保有者数

FP資格	令和4年3月末
FP1級	1
FP2級	133
FP3級	426
合計	560

(参考)「顧客本位の業務運営に関する原則」(金融庁公表)について

【顧客本位の業務運営に関する方針の策定・公表等】

原則 1	金融事業者は、顧客本位の業務運営を実現するための明確な方針を策定・公表するとともに、当該方針に係る取組状況を定期的に公表するべきである。当該方針は、より良い業務運営を実現するため、定期的に見直されるべきである。
------	---

【顧客の最善の利益の追求】

原則 2	金融事業者は、高度の専門性と職業倫理を保持し、顧客に対して誠実・公正に業務を行い、顧客の最善の利益を図るべきである。金融事業者は、こうした業務運営が企業文化として定着するよう努めるべきである。
------	--

【利益相反の適切な管理】

原則 3	金融事業者は、取引における顧客との利益相反の可能性について正確に把握し、利益相反の可能性がある場合には、当該利益相反を適切に管理すべきである。金融事業者は、そのための具体的な対応方針をあらかじめ策定すべきである。
------	--

【手数料等の明確化】

原則 4	金融事業者は、名目を問わず、顧客が負担する手数料その他の費用の詳細を、当該手数料等がどのようなサービスの対価に関するものかを含め、顧客が理解できるよう情報提供すべきである。
------	--

【重要な情報の分かりやすい提供】

原則 5	金融事業者は、顧客との情報の非対称性があることを踏まえ、上記原則4に示された事項のほか、金融商品・サービスの販売・推奨等に係る重要な情報を顧客が理解できるよう分かりやすく提供すべきである。
------	--

【顧客にふさわしいサービスの提供】

原則 6	金融事業者は、顧客の資産状況、取引経験、知識及び取引目的・ニーズを把握し、当該顧客にふさわしい金融商品・サービスの組成、販売・推奨等を行うべきである。
------	---

【従業員に関する適切な動機づけの枠組み等】

原則 7	金融事業者は、顧客の最善の利益を追求するための行動、顧客の公正な取扱い、利益相反の適切な管理等を促進するように設計された報酬・業績評価体系、従業員研修その他の適切な動機づけの枠組みや適切なガバナンス体制を整備すべきである。
------	---

※各原則の注記は記載を省略しています。